

(5) 大学附属高等学校の運営総括

I. はじめに

「安心しなさい。わたしだ。恐れることはない。」

マタイによる福音書 14 章 27 節

北星学園大学附属高等学校は、スクール・ミッションとして「キリスト教精神に基づいた他者と共に生きる自立した市民としての人格形成を育む」ことを教育目標として掲げ、さらに3つの力を育成することを大切にしてきました。社会情勢が目まぐるしく変化する中、生徒への指導の在り方、教育の方向性、教師としての自らの資質を顧みる時、答えのない問いの前で、迷うことがありました。職員会議等で意見を交わし、理解を深めようと試みてきました。その中で、最終的に辿り着くことは、この教育目標に立ち返ることでした。



北星学園大学附属高等学校
校長 今城 慰作
IMAJO, Isaku

「学校法人北星学園中長期計画～グランドデザイン 2020-2040～」では「2040 年までに目指す姿」を策定し、少しずつ「2030 年 Milestone（中期目標）」を意識しながら、年度ごとのアクション・プランを実行しています。

教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握する努力を重ねてきました。多忙の中でまだまだ改善の余地はありますが、同時に私は校長として、各教員の生徒に向かう情熱と熱意に頭が下がる思いです。引続き生徒の成長を支える活動を、組織的に展開することを目指します。財政運営については、物価高、円安の影響も受けながら、グランドデザインに掲げる 2030 年までの中期的な財政計画に基づいて、最善の努力と改善を目指しました。

・ 2024 年度達成状況一覧

事業分野		◎ 達成	○ 達成への進行度 (高)	△ 達成への進行度 (低)	× 中止	計
重点施策		0	1	0	0	1
教学	I. 教科教育	4	9	4	0	17
経営・管理	II. 生活指導	2	2	2	0	6
財務	III. 進路指導	0	3	2	0	5
合計		6	15	8	0	29

※達成度：◎達成、○達成への進行度（高）、△達成への進行度（低）、×中止

II. 重点施策

1. 教学の観点では、本学の教育を深化させるために、各教員が国内の最新の技術を身につけ、学びを深め、社会のニーズを適切に把握し、時代の流れに流されない芯をもちつつ、実存する人間そのものを大切にする活動を展開することを目指します。

(1)	教員のスキルアップのために動画視聴研修の視聴回数を 10%増加させます。	達成度	○
(2)	各教科（特に数学）の外部模試での偏差値上昇を目指します。		
(3)	生徒に寄り添い、転出者を 5%以内におさえます。		

外部の研修会に参加することが物理的に難しいケースのために、生徒指導、教科指導、最新の技術を紹介している「Find アクティブラーナー」の視聴を促しました。特に、インクルーシブな教育の在り方について考える材料を提供しました。外部模試の成績は個人差と波があるため、日常の家庭学習の定着が次の課題となります。クラス作りのためのエンカウンターグループなどの取組み、遠足、それぞれの特性を尊重しながら、適切な支援を探ることにより転出者は一桁に抑えることができました。

III. 教学

I. 教科教育

1. 知識を得ることや学ぶことに能動的に取組み、自らの世界を広げることができるよう、授業や行事を計画する。

(1)	一方的に知識を得る授業ではなく、主体的、能動的に教科に取組む生徒を育む仕掛けを工夫し、回数をカウントして次年度以降の基準として増やします。	達成度	○
-----	---	-----	---

総合的な探究の時間では、自分の興味・関心の深め方を学び、自ら課題を設定し、グループワークで異なる意見をまとめながら調べ学習の内容をポスターセッションやパワーポイントの形で発表することで、主体性を育みました。また、聞き手として発表者の評価にも取り組みました。研修旅行でも、平和という視点で訪問地について学びを深めることを通して、自らの世界を広げ、能動的に取組む姿勢を涵養しました。授業内でのプレゼンテーション等の回数など、今年度の実績を基準に、次年度以降も主体的、能動的に教科に取組む仕掛けを検討していきます。



▲ 探究プログラム発表の様子



▲ 総合研修旅行（台湾コース）

2. 学習の機会に他者の考え方や価値観に触れさせ、知識や視野を広げ（深め）る事で、人間性の成長を図る。対話による学習の機会を多く設け、周りの力も借りながら課題解決の力を養えるような指導力を身につける。

(2)	映像教材や出張講義を利用して、外部で社会活動をしている方々の考え方に触れ、表層的な成果だけではなく、背後にある知識、苦勞を知る力を育みます。	達成度	○
-----	--	-----	---

選択授業（福祉）で、北星学園大学社会福祉学部先生に出張講義を依頼し、取組みを実施しました。また、平和記念礼拝で、北星学園大学短期大学部先生を招き、講演会を実施しました。

3. 適宜必要な情報を導き出し、それらを有機的に組み立て活用し作り上げていく力を育めるように、教員の情報スキルを高める。

(3)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「Findアクティブラナー」の視聴数を前年度比10%増加させます。	達成度	△
-----	--	-----	---

全体では58件の学習動画視聴がありましたが、教職員全体への周知・徹底が弱かったため、全体的な視聴数は伸びませんでした。次年度以降は、定期的なアナウンスを心がけていきます。

4. 高校生活の間に、科学的・論理的な思考を深める事ができるように、3年間の学校生活の中であらゆる機会を通じて学ばせる。

(4)	ベネッセの外部模試を分析結果では、数学の学力が全国平均より低下している傾向があるため、偏差値上昇のための方策を立てます。各教科、平均偏差値40を超えることを目標とします。	達成度	○
-----	---	-----	---

数学では、1年特別進学コースにおいて学力別展開授業に取組みました。理科では、実験授業を1年生は2回、2年生は2回、3年生は9回取組みました。

5. 発表の力を身に付けられるように、複数の教科で探究的な学習を行う。

(5)	各教科の中で、一方的な知識の詰め込みにならず、学習効果の高い授業を各教科で点検します。	達成度	○
-----	---	-----	---

各教科の授業内において生徒がプレゼンテーションをする機会を設けました。家庭科では1回、英語科では6回、総合的な探究の時間において3回実施しました。

6. 主体的・対話的で深い学びの実践を進める。

(6)	教師が講義する形式から、生徒の学びのファシリテーターのような役割を担えるような授業を創造していくことを目指し、方策を研究します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

パフォーマンス課題を実施し、生徒の主体性や生徒同士の対話を重視した授業展開を全教科で取組みました。

7. ICTを活用し、知識・技能の定着を図りつつ、効率良く学習できる環境を整える。

(7)	ICT教材を活用して、各自の苦手分野の克服を行い、理解のないまま先に進むようなことがないように、効率的な学習方法を模索します。	達成度	○
-----	---	-----	---

日常的な調べ学習や、デジタル教材、グループワークなどの場面でICTを活用させることで、作業の効率化や意見の提示などの場面で効果的かつ効率的に使用されるような変化がみられました。



▲ ICTを用いたグループ発表

8. 思考力・表現力・判断力を身に着け、自立した自己を確立する。

(8)	一方的に知識を得る授業ではなく、主体的、能動的に教科に取り組む生徒を育む仕掛けを工夫し、回数をカウントして次年度以降の基準として増やします。	達成度	○
-----	--	-----	---

総合的な探究の時間では、自分の興味・関心の深め方を学び、自ら課題を設定し、グループワークで異なる意見をまとめながら調べ学習の内容をポスターセッションやパワーポイントの形で発表することで、主体性を育みました。また、聞き手として発表者の評価にも取り組みました。研修旅行でも、平和という視点で訪問地について学びを深めることを通して、自らの世界を広げ、能動的に取り組む姿勢を涵養しました。授業内でのプレゼンテーション等の回数など、今年度の実績を基準に、次年度以降も主体的、能動的に教科に取り組む仕掛けを検討していきます。

9. 多様性・協働性を意識し、他者や社会、世界とつながりを意識した課外活動を行う。

(9)	課外において、さまざまな人種や幅広い年齢層の人達との協働作業に取り組んだ回数を各学年1～2回に設定します。	達成度	○
-----	---	-----	---

厚別東町内会の除雪ボランティア及び新さっぽろ冬まつりのボランティアに参加しました。加えて、留学生との授業内交流講義を行いました。多様な人々や社会とのつながりを意識した活動を今後も継続して実施していきます。



▲ カナダからの短期留学生



▲ 長期留学生とのグループワーク

10. 変動する世界状況の中で、普遍的な真理（キリスト教精神に根差した人間観、倫理観など）を探究する。

(10)	平和学習を基盤とした企画を行います。各学年1～2回設定します。	達成度	◎
------	---------------------------------	-----	---

平和祈念礼拝では、北星学園大学から教授を招き、「誰の隣人になりますか～水俣と北星を結ぶできごとから～」と題し全校生徒に講演を頂き、「隣人と共に生きる」、「わたしの隣人とは誰なのか？」ということについて考えました。各学年のなかでは、聖書の授業をとおしてキリスト教精神に根差した人間性や倫理観を段階的に育めるよう取組みを進めました。



▲ 平和祈念礼拝の様子

11. 上記項目の目標を達成するために、外部研修への参加推奨、オンライン講義の参加、講師を招いた研修会の開催などで教員のスキルを向上させる。

(11)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「Findアクティブラーナー」の視聴数を前年度比 10%増加の数値目標をもって、教職員がオンライン、対面の研修への積極的な参加を行い、スキルを身につける努力を行います。	達成度	△
------	---	-----	---

全体では 58 件の学習動画視聴がありましたが、教職員全体への周知・徹底が弱かったため、全体的な視聴数は伸びませんでした。次年度以降は、定期的なアナウンスを心がけていきます。

Ⅱ. 生活指導

1. 人は社会の中で育つという考えに基づき「集団づくりを中心に据えた教育」を理念とする実践構築のための具体的な仕組みを確立する。

(1)	学年団と共に、入学プログラムの総括を行い次年度に繋げます。人間関係の悪化による退学者の減少を目指します。	達成度	○
-----	--	-----	---

様々な部署と連携しながらの支援・指導を行った結果、退学事由が問題行動等による者の人数は 0 名となりました。



▲ 体を動かしたレクリエーションの様子

2. 他者理解と自己表現を養いながら、「人間性」「社会性」を育てるため、課外活動の活性化と指導体制を強化する。

(2)	クラブの加入率 65%を維持します。定期的なアンケートについては、今年度、70～80%の回答率を目指します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

クラブ加入率・学校生活に関するアンケート回答率のいずれも目標を達成しました。引き続き、クラブ活動を通して「人間性」「社会性」を育みつつ、回収したアンケートについては、分析を行い活用について検討を進めます。



▲ サッカー部選手権大会の様子

3. 生活指導上の問題が起こる前に全教員で「未然に防ぐ」ことができる指導体制を構築する。

(3)	教育支援チームと SSW とが、連携を強め問題行動を未然に防ぎ、指導案件を5%ダウンできるようにします。	達成度	◎
-----	--	-----	---

指導部のみならず、学年、学級における教育支援チームや SSW（スクールソーシャルワーカー）と連携した生徒への働きかけが功を奏し、指導案件は前年度比で半減し、目標を達成することができました。

Ⅲ. 進路指導

1. 生徒自らが望む将来像に見合った進路選択ができるように、進路指導体制を強化する。

(1)	卒業時にアンケートを実施し、生徒自身が、進路実現ができたかどうかの満足度を調査することにします。	達成度	△
-----	--	-----	---

2024 年度は実施できませんでしたが、進路実現に向けた取組みに対する生徒からの声は概ね高評価でした。満足度を調査する卒業時アンケートの実施については、次年度以降に引き継ぎます。



▲ 卒業生による進路体験談

2. 大学生（学園内）との交流等も含めた高大連携事業の効果を検証し、取組みの強化を計りながら
学内進学者を増やす。

(2)	高大連携で取組んできたことを継承し、北星学園大学への進学者数 70 名の目標実現を目指します。	達成度	△
-----	---	-----	---

2024 年度の進学者は 60 名、進学率は全体の 25%となりました（昨年度△15 名）。次年度以降は
高大接続を強化し、出張講義やミニオープンキャンパスなどの取組みも強化しながら、北星学園
大学への進学希望者を増加させます。

3. 時代によって変化する大学入試制度を研究し、進学希望者の進路実現に向けて適切な情報提供
ができる体制を確立する。

(3)	教員のスキルアップのため、動画配信型講義の「F i n d アクティブラーナー」の視聴数を前年度比 10%増加を数値目標として、外部の研修会（オンラインも含む）に参加し情報収取をして職員研修会に参加する回数を増やします。	達成度	○
-----	--	-----	---

全体では 58 件の学習動画視聴がありましたが、教職員全体への周知・徹底が弱かったため、全
体的な視聴数は伸びませんでした。次年度以降は、定期的なアナウンスを心がけていきます。

IV. 経営・管理

I. 募集体制と広報

1. 目指す姿に掲げた「5つの教育を柱とするブランド力ある教育」を意識し、私立の独自性を活か
した戦略的な「入試・広報」体制を確立する。

(1)	3 回行う学校説明会に各回 300 名の受験生を迎えることができるように します。	達成度	◎
-----	--	-----	---

学校説明会の参加者は 7 月 248 名、9 月 345 名、11 月 383 名の参加がありました。今年度は説
明会の中で、新たにノベルティ（オリジナルキャンディ）を作成し、イベントの景品としました。

2. 入学生のニーズ、在校生の満足度を把握し、募集体制と広報に活かせる体制を構築する。

(2)	クラブ活動のみならず、学校全体の教育活動の魅力を発信していきます。 受験生 1,000 名を確保できるようにします。	達成度	△
-----	---	-----	---

今年度は 838 名（昨年度 889 名）の出願がありました。石狩学区の中卒者数の減少もありまし
たが、目標達成に向けて今後も新たな募集広報活動に取組みます。

3. 学校説明会やクラブ見学会など募集にかかる取組みを学内で適切に計画し、強化する。

(3)	学校説明会に足を運んでもらうための広報活動を行います。クラブ見学会 を適切に計画します。	達成度	◎
-----	---	-----	---

学校説明会の宣伝は H P に加えて、今年度は公式 instagram での宣伝も行いました。また、DSP
広告についても今年度から始め、特に新札幌、南郷 7 丁目の地下鉄利用者が学校公開説明会のバ
ナーからアクセスしていることから、ターゲットにつながる広報を展開することにつながりまし
た。

Ⅱ.働き方改革

1. DXを推進し業務の効率化を目指す。

(1)	職員が共有する情報のペーパーレス化は、今後も推進します。長時間労働の10%減少と、休暇取得率の10%増加を目指します。	達成度	○
-----	---	-----	---

殆どの会議においてペーパーレス化を実施し、作業時間の短縮につながりました。休暇取得率は目標の10%増加には届きませんでした。

2. コンプライアンスを徹底できるような管理体制を構築する。

(2)	新しく赴任した教員が分かりやすいように、校内の規程集を完成させます。さらにこれをもとに今年度、管理体制を整えます。	達成度	△
-----	---	-----	---

校内の規程集を集約する作業を進めてきましたが、今年度はこれを1つにまとめるまで至りませんでした。次年度以降、電子化も視野に作業を継続していきます。

Ⅲ.採用計画

1. 計画的な採用と適正な人員配置を実現できる体制を構築する。

(1)	新規採用は、平均年齢が40歳代の半ばを維持できるように、計画的に行います。	達成度	○
-----	---------------------------------------	-----	---

3名(30代2名)(50代後半1名)を、嘱託から専任に任用替えしました。50代の教員補充は、本校での実績と期待値を前提に、数年後の若手採用を見据え計画的に採用しました。

V. 財務

I. 財務運営方針

1. 2030年に向けて設定した財政運営目標を達成する。

(1)	転出者について、一桁の5名以内に抑える努力をします。そのために生活(生徒)指導にも力を入れます。	達成度	○
-----	--	-----	---

転出者は2名、退学者は4名となり、5名以内との目標は達成できなかったが、2022年度の転学者17名、退学者3名という数値からは改善が進んでいるため、目標を達成すべく生活指導の維持を今後も継続していきます。

2. 奨学生を適正値におさめ入学生を安定的に確保することで、適正な収支バランスを作り出す。

(2)	クラブ奨学生のスカウトは他校との競合という側面もあり難しさもありますが、競合校に負けない求心力が持てるように全教職員で協力していきたいと思います。	達成度	○
-----	---	-----	---

他校との競合と奨学費の支出抑制のバランスを意識しつつ、取組みを進めてきました。引き続き、教職員間で協力しながら進めていきます。

3. スクールバス事業にかかる効果測定と検証を行ったうえで運行目的を明確化し、この事業において適正な収支バランスを作り出す。

(3)	スクールバス事業の支出超過（運賃収入-スクールバス契約料金）を学生生徒納付金の3.7パーセント以下とします。今年度も運行方法については更なる改善を検討します。	達成度	△
-----	---	-----	---

スクールバスの運行方法については検討を重ねているものの、ドライバー不足などの外部要因もあり抜本的な改善策を見出すことができませんでした。引き続き改善策を検討していきます。

4. 新施設の建築や整備の設置・修繕等を念頭にした中長期的な財政計画を立案する。

(4)	----
-----	------

5. 設定した寄付額を達成できるような募集体制を構築し、寄付を推進する。

(5)	いただいた寄付の活用状況を、ホームページ等を使って紹介していきます。	達成度	△
-----	------------------------------------	-----	---

SNS などを通して学校紹介等を行うことができましたが、「寄付の活用状況」という形での情報発信につなげることはできませんでした。次年度以降に検討していきます。

II. 施設・設備

1. キリスト教教育を象徴する講堂（多目的礼拝堂）を建設する。

2. スクール・ミッションを体現できる施設（教室、交流スペース、図書館、体育施設など）の設計を行う。

3. 上記は、財政運営目標を達成した際に現実化に向けて検討を始める。

(1)	これらの実現は、2040 年を念頭において、計画段階で慌てずに設計できるように、話し合っていきます。	達成度	○
-----	--	-----	---

具体的な建設計画については議論できませんでしたが、財政運営目標の達成を見据えつつ、ビジョンを策定していきます。まずは、財政運営目標の達成に向けて教職員の意識を高めていきます。

以 上